

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
モミロマン	2.3ha	715kg/10a	184kg/10a(530kg/10a)※

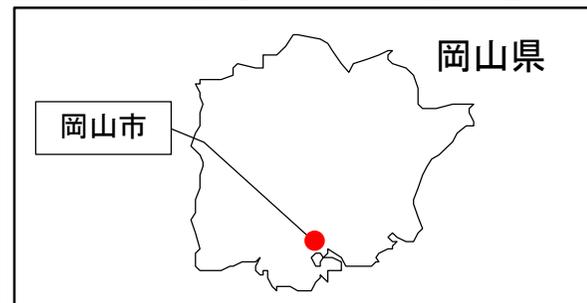
※作況補正後の地域の平均単収

【経営概況】

- 令和2年3月10日法人設立。お米中心の栽培から高収益作物を取り入れた経営を目指すため、試験的に野菜の栽培を行っている。
- 代表取締役 荒井 隆文
- スタッフ 3名(妻、息子2人)

【作付品目】

- 主食用米: R元 31.4ha→R2 38.5ha
(うち半分で酒造好適米を栽培)
- 飼料用米: R元 2.3ha→R2 2.5ha
- 大麦(ビール麦): R元 16.0ha→R2 25ha
- 野菜: R元 0.5ha→R2 0.8ha



【取組のきっかけ】

- 高齢化により多くの農業者がリタイアするため、近隣の水田を引き受け作付面積は年々増加している(来年度は41ha。)。その中で作期分散を図り、労働力の平準化を図るため、平成28年から飼料用米の生産に取り組んでいる。

【取組概要】

- 生産性向上の取り組みとしては、多収性で耐倒伏性に優れる「モミロマン」を作付けることにより多収を実現している。併せて、刈り取り時期をずらすことで、主食用米との作期分散を図っている。
 水管理が遅くまでできる圃場を選定し作付けするとともに、育苗時に追肥(硫安を2回散布)を実施し苗の老化を防ぎ移植時の活着促進を図ることにより、栽培期間をより長くとり、多収となるよう取り組んでいる。
 モミロマンは脱粒性が高いため、主食用品種より低速で刈り取りを行うことで、収穫時の脱粒を防ぎ収量アップにつなげている。併せてコンバインへの負荷軽減も実現させている。
- 生産コストの低減では、①耕起時に基肥をトラクターにより散布し、労働力・時間を低減。②植栽密度を地域の慣行60株/坪から50株/坪に減らす疎植栽培により、資材費、労働力を低減している。③立毛乾燥を行うことで刈り取り時の水分を大幅に減少させ、乾燥時にかかる経費と時間を低減している。④フレコン出荷により包装容器代及び運搬経費の削減を図っている。などの取り組みを行っている。